

作新学院新聞

小学部 野田優佳

桜の木が満開になり、花びらが舞い散る中、私たちは小学校部に入学しました。しかし、いつのまにか6年の月日が過ぎ、私たちにはもう卒業が間近に迫っています。その間にみんなで力を合わせて戦つた運動会や音を一つにした音楽会、友達と一緒に過ごした修学旅行などがありました。その中で一番忘れられないことは東日本大震災です。

昨年の3月11日、あの日私たちは、今までに体験したことのない大震災を見舞われました。そして私たち以上に被害の大いな東北地方の映像を見てショックを受けました。震災後、私たちは「オール新プロ젝クト」を組んで南仙沼小学校にビデオレターを送ったり、福島に除染用雑巾を作つたり、福島に除染用雑巾を作つたりしました。学院全体で救援活動をし、私たちは「団結」ができました。

私たちが今まで学んできた6年間の知識や思い出は、これから私たちが未来へ進むの土台になってくれます。今までわりのみんなや先生方、家族から教えてもらつたことは一つとしてむだにせず、次に心の中にしまつておきたいた友達、そして私たちをいつも応援してくれた先生方や家族のみなさん、本当にありがとうございました。この6年間の小学生生活は私たちの宝物です。いつまでも大切に心の中にしまつておきたいと思います。6年前の春、私たちを満開でむかえてくれた桜の木はまた、新入生を満開でむかえる為の準備を始めています。

在校生の皆さん、今はまだこれから始まる生活に期待を寄せて正門をくぐったあの日、右も左も分からなかつた私に、先輩方は優しく丁寧に接してくださいました。そのおかげで、私たちは心身ともに大きく成長することが出来ました。

私が3年間中等部で過ごして最も強く感じたものは「絆の強さ」です。入学時の私たちに対する接し方からも分かるように、この中等部には本当に強い絆があるのです。学校行事においても、運動会で勉強以外に生徒会活動も新たに加わり、毎日が新鮮で充実したものでした。私は、この3年間で数多くの事を学ぶことができました。中でも生徒会長を務め、さまざまな行事に携わった昨年は特に忘れてはならない経験や発見がありました。

今年は東日本大震災という未曾有の大災害が起り、大きな被害が発生しました。学院全体で支援をしていく中で、中等部は福島第2原発で働く作業員の方々にメッセージ入りの手紙を送りました。これは中等部だから出来たことだと私は考えています。

中等部にこれだけの絆があるのも、私たちを深い愛情をもつて見守つてくださる先生方、そして私たちをここまで育てくれた両親のおかけです。この恵まれた環境で育ち、学ぶことが出来たことに感謝するとともに、この学校に通っていたという誇りを持ちながら、これから的人生を送りたいと思いません。

私たちにはさまざまな困難があります。卒業生は今、この慣習で受け取ることで、自分たちが立てる自分たちになるために、卒業生各人がそれぞれの目標に向かって羽ばたいてまいります。

卒業生の言葉

クリスマスリース届け

12月、年長組の代表の子どもたちが県庁や市役所、いつもお世話をなつてくださる交番や消防署へ手作りの大きなりース届けに行つた。

お届け先の皆さんは、とても温かく迎えてくださいました。市役所では、市長が子どもたちを笑顔で迎えてくださり、市長の椅子に一人ひとり座るという貴重な体験もさせていただいた。はじめは緊張と不安が入り交じる中等部 山野上一輝

期待と不安で胸をいっぱいにしながら臨んだ入学式。早いもので、あれからもう3年が経とうとしています。

思い返すと、この作新学院で過ごした3年間の高校生活は、勉強以外に生徒会活動も新たに加わり、毎日が新鮮で充実したものでした。私は、この3年間で数多くの事を学ぶことができました。中でも生徒会長を務め、さまざまな行事に携わった昨年は特に忘れてはならない経験や発見がありました。

それでも温かく迎えてくれる交番や消防署の恒例行事となつたり、ス届けだが、このリースが経とうとしています。

待ち受けていることでしょう。

しかし、学院で学んだことを活かし、一步一步力強く前に踏み出していくといたいと思います。

私は作新理容美容専門学院に入学し、たくさんのことを学びました。

人との繋がりの一歩目となる挨拶。できているようでも全くできませんでした。「お

はようございます」「ありが

とうございました」など、た

った一言ですが心から言われ

た挨拶は相手も嬉しくなり、

自分自身への印象も変わります。

そして、挨拶によって感謝の気持ちや人を思いやる気持ちを伝えることができるところを教えていただきました。まだ当たり前のようにはできませ

んが、社会に出る前に、今こ

の学校で再確認できたことは大切なことであり、貴重な経験だったと思います。

また、何よりも言われたこ

とは「素直になること」です。

まずは全てを素直に聞き入れ、自ら判断し行動を起こす。そ

こに自分の成長がありました。

時には納得いかず反発したこ

ともありましたが、それを知

つた上で先生たちの厳しく

温かな言葉があつたのだと、卒業を目の前にしてやつと少しずつ分かれ始めました。だ

からこそ、この学校を卒業し

社会人になる私たちは、まだ

これからこの、この学校を卒業し

の喜びと、仲間との絆を確かめることができた今

回の長距離走大会。一人

ひとりの心に思い出とし

て強く残つたに違いない。

努力し、達成すること

の喜びと、仲間との絆を

確かめることができた今

回の長距離走大会。一人

ひとりの心に思い出とし

て強く残つたに違いない。

張していた子どもたちも、笑顔で職員の方々と触れ合うことができ、「緊張

なリースになつた」

が、身近な人やお世話になつてている人に感謝の気持ちを忘れずにこれか

らも過ごしていきたいと

感じた1日であつた。

2年一度、この季節

の恒例行事となつたり、ス届けだが、このリースが経とうとしています。

思い返すと、この作新学院

で過ごした3年間の高校生活は、勉強以外に生徒会活動も新たに加わり、毎日が新鮮で充実したものでした。私は、この3年間で数多くの事を学ぶことができました。中でも生徒会長を務め、さまざまな行事に携わった昨年は特に忘れてはならない経験や発見がありました。

3年間で数多くの事を学ぶことができました。中でも生徒会長を務め、さまざまな行事に携わった昨年は特に忘れてはならない経験や発見がありました。

3年間で数多くの事を学ぶ

ことができました。中でも生徒会長を務め、さまざま

な行事に携わった昨年は特に忘れてはならない絏験や発見がありました。

3年間で数多くの事を学ぶ



夏のベスト4進出
春のセンバツ出場決定
第93回全国高校野球選手権大会に出場(2年ぶり7度目)した夏の大会は、ベスト4(準決勝進出は49年ぶり)という輝かしい成績を収め、多くの感動を残して幕を閉じた。



試合結果	
1回戦	11-1 福井商(福井)
2回戦	3-2 唐津商(佐賀)
3回戦	6-3 八幡商(滋賀)
準々決勝	7-6 智弁学園(奈良)
準決勝	0-5 光星学院(青森)



園にまた「作新の風」を吹き起こしてほしい。おめでとう作新ナイン!頑張れ作新ナイン!

硬式野球部

そして1月27日は、8年ぶり9度目の選抜出場決定の吉報が届いた(県内最多の出場回数)。

軟式野球部

前回は悪天候の影響で5校優勝だつただけに、今回の優勝は格別。黒川陽介監督は「勝ちたいという思いの強さの勝利。3年生の野球に取り組む姿勢は、新チームの財産になる」と国体で引退する7人の3年生を称えた。

が盛大に開催された。
「きっとある!君がやりた部活動!」をスローガンに掲げ、中学生に体験・見学していただけ祭典である。

本学院には運動部・文化部計54団体があり、それぞれ目立った活躍を遂げている。

中学校にはない部活動もたった。記録上は連覇だが、

部活動フェスティバルが快晴に恵まれた9月11日「部活動フェスティバル2011」が盛大に開催された。

以下は栄えある受賞者【男子】

優秀選手賞受賞者

山口国体の軟式野球でませ!山口国体の軟式野球決勝が10月5日にビジコム柳井スタジアムで行われ、天理(奈良)を2-0で下し、2年連続7度目の優勝を果たした。作新は初回、3回に手県大会で優勝を目前に、ラ

イバル中京岐阜)に逆転サヨナラ負けを喫した作新ナイン。「負けたまでは終われない」という強い思いを胸に臨んだ決勝戦。日本一へのこだわりが最後の最後で結実した。記録上は連覇だが、

高橋涼太・大塚隼・木戸樹弘・飯野徹也・内藤諒太▼軟式野球山下勇斗・石井一成・鶴田剛也・高嶋翔馬・大垣憂斗・大林慎規・山井将来・金山明・板崎直人・佐藤竜一郎・大谷直人・佐藤竜一郎・大谷直人・南野瑛文▼弓羽石優・新井匠真・和田直之・谷崎尚貴・林優道・伊澤修太▼少林寺

藤裕輝・新井大聖・亀和田祥希・江口礼・森祐太郎・岡田滉生・大石朋宏・レイ・フック・ターン・森祐太郎・神山直人・南野瑛文▼弓羽石優・新井匠真・和田直之・谷崎尚貴・林優道・伊澤修太▼少林寺

藤智己・田口祐樹▼バレーボール関根健太・関根悠太・鈴木龍・中村真人▼バスケットボール谷原健太・沼尾光弘・江村伊藤徹▼卓球近藤禄史・室井翼・須藤豊▼陸上競技中川晃徳・上野駿・津畠久彩乃・土屋拓実・下健▼バドミントン坂元優・上野章紘・渡部彈・増渕拓人▼体操竹内悠将

△自転車競技萩原慎也・山口智礼・吉田悠人・福

優秀選手賞受賞者

山口国体の軟式野球で

藤裕輝・新井大聖・亀和

田祥希・江口礼・森祐太郎・

岡田滉生・大石朋宏・レイ・

△自転車競技萩原慎也・山口智礼・吉田悠人・福

優秀選手賞受賞者